



私の役の佐伯永丸は、芦峯寺衆の総代の1人で、柴崎と長次郎に協力を頼まれる人物です。本物の立山曼荼羅を前に、開山縁起を説く場面があります。

木村監督とご一緒した作品は3作になります。木村さんは現場の雰囲気を高めて、熱気や渦を巻き起こす方で、昔の言葉で「活動屋さん」の魂をもった方ですね。

それと実は私の親父は測量技師で、陸地測量部に配属になったと聞いています。詳しくはほとんど知りません。測量というのは戦略的な面があるので、話せなかったこともあるでしょう。私は生意気盛りで、親父のやっていることは否定すべきものとしてしか見えませんでした。今度の台本を読み、今までと違った目で親父の姿を見

るようになりました。

一方私は高校を卒業するときも、何をしたらいいか迷っていて、楽しみはエノケンの映画と落語で、「ああいうふうにならないうちに人前で上手に話したり、笑わせたりできたらすごいな」と思っていました。俳優座に入れたのは奇跡のようなものですが、プロになって今年で51年になります。

俳優の仕事は、基本的に初体験で、どんな役でも前に演じたことはなく、全部チャレンジですね。山登りと一緒です。今回のリーダーは木村さんです。撮影は容易でないのに、浅野君にしても香川君にしても、面魂、ものの見方、考えかた、かつての日本人がもっていた職人肌、プライドというものを持ち続けていました。

井川比佐志 いがわひさし

1936年旧満州・奉天生まれ。俳優座養成所に第7期生として入所。1958年俳優座の座員に昇格。映画「おとし穴」に主演。1973年退団。田中邦衛らとともに安部公房スタジオの旗揚げに参加。1970年毎日映画コンクール主演男優賞。1972年キネマ旬報主演男優賞。1992年日本アカデミー賞助演男優賞。